有用遺伝資源の評価・利用

【研究概要】

東京都の育成品種をはじめ、広く有用植物や品種等を収集・評価し、有望品種の特性を把握すること。および、有用遺伝資源については新品種育成に活用することをめざして試験を実施した。

（１）ブバルディアでは、第３期２品種の現地試作（２年目）での生育特性や市場性を確認した。また第４期候補系統の最終選抜にむけて現地試作（１年目）を行った。

（２）アシタバ育種の基礎資料として、個体選抜の効果や花粉媒介昆虫ヒロズキンバエの有用性を明らかにした。

（３）春まきホウレンソウと夏秋ダイコンの有望品種を選定した。

（４）サトイモ「東京土垂１・２号」の種芋を都生産者団体（３団体）に各１kg配布した。

（５）４月下旬出荷作型のカリブラコアと11月下旬出荷作型のハボタンの有望品種を選定した。

（６）７月下旬および９月下旬まき施設コマツナの有望品種を選定した。

（７）新樹種見本園および香木園に植栽されている樹木について、葉の傷みや枯損を確認した。